

ふるさかはるか

Haruka Furusaka Solo Exhibition

## 積層の器 ことづての声

A Vessel in Layers - The Voice of Lore

2022年11月26日[土]～12月18日[日] 13時から19時まで

\*12月10日[土]は13時から18時30分まで

水・木休廊 / 入場無料

助成:公益財団法人小笠原敏晶記念財団 協力:有限会社修美社

【ギャラリートーク】

11月27日[日] 14時～ 参加無料・予約不要  
本展覧会や作品などについて、作家によるギャラリートーク。

【公開制作】

12月4日[日]・18日[日] 13時～16時  
2023年に出版を予定している「本」づくりに向けた実験作業の一環として、  
藍と漆を使った木版刷りの試作の様子をご覧いただけます。  
※会場で漆を使用する可能性があるため、漆かぶれに敏感な方はご考慮ください。

【アーティストトーク】

12月10日[土] 19時～20時 入場料1000円 定員20名(予約優先)  
津軽・南部地方での取材の様子をスライドを交えながらお話しします。  
※予約・詳細はギャラリー・パルクWebサイト(www.galleryparc.com)にて受付



Gallery P A R C

GRAND MARBLE

602-8242 京都府京都市上京区叡苑町287 堀川新文化ビルディング 2階  
075-334-5085 | info@galleryparc.com | www.galleryparc.com

『絵具や木、紙や道具に至るまで、その土地の気候や環境と密接に関わる木版画はその風土を映し出す』。

ふるさかは1999年武蔵野美術大学油絵学科卒業後、2002年よりフィンランド、ノルウェーなどでのレジデンス・発表をはじめ、様々な土地を訪れるなかでその地の暮らしや風土を知り、そこを端緒に木版画を制作しています。

木や土など、その土地の自然素材を得て制作するふるさかの版画はまた、そのプロセスにおいて素材から自然や暮らしを汲み取る行為でもあるといえ、近年では「自然と共に生きる人びとの言葉や手仕事」を眼差し、自身の手仕事(版画制作)や他者の手仕事を通じて「人が自然から何を読み取り、協調しているのか」について知り・確かめる行為として、取材から木版画制作に取り組んでいます。

2017年よりふるさかは津軽・南部地方で、山の人びととその手仕事を取材し、彼らの何気ない言葉を題材に作品を制作しています。また2023年にはこれまでの取材・作品をまとめた『本』の出版を計画し、現在も精力的に取材・制作を続けています。この一連の取材においてふるさかは、彼らの「山の命との向き合い方」に眼差しを向け、彼らが自然とどのように向き合い、何を読み取り、それが手仕事にどのように表れているのかについて、伝承されてきた創意工夫、人と自然の関係性への洞察が含まれる言葉を取り上げます。そして、それらの言葉をもとに、彼らの手仕事を自らの手で理解しようと、土を拾い藍を育てて絵具を作り、木片の形に導かれながら自然の色・形と呼応するように版木を彫り、作品をつくります。

本展「積層の器 ことづての声」は、ふるさかがこれまでの取材の中で触れてきた・得てきた言葉やものとともに、土と藍の絵具で描いたドローイングや木版画作品、ピンホール写真、作品未満の素材などをあわせて展示いたします。ここでは、取材を通して得てきた「自然と人間との関わりのあり様」について、知識や言葉における理解から、自らの手を動かすことによる「共感」へと転換する、ふるさかの「手を動かし、知る」の手つきを体感いただけるのではないのでしょうか。

会期中には、本展や展示作品・資料などについて、作家が簡単に解説する【ギャラリートーク】、津軽・南部地方での取材の様子をスライドを交えながらお話しいただく【アーティストトーク】、2023年に出版予定の『本』づくりに向けた試作作業をご覧いただける【公開制作】を開催いたします。

——「サーミの人たちは、いつも漁労や狩猟やトナカイの世話をすることで生活していた。だから彼らにとって前に進みながら知識を得るということは、第二の天性だった。動くことによって知るのではなく、動くことこそが知ることなのだ。」

社会人類学者のティム・インゴルドは、フィールドワークにおいてあるべき姿勢をサーミの生き方になぞらえてこう語った。\*

美術家にとってのフィールドワークの意義は、事実の裏付けをとって調査論文を書くことにあるのではなく、体験したことを自らの表現手段になぞらえて、論理的な説明が難しい方法で表現し伝えることにある。

作品づくりの手を動かすことによって知ることは、インゴルドのいう「動きながら知る」ことに等しい。

そのように作品制作に備わったフィールドワークの要素をあぶり出すため、私は同じく自然の中で「手を動かし知る」ことを営んできた人びとの言葉と共感を求めて取材する。

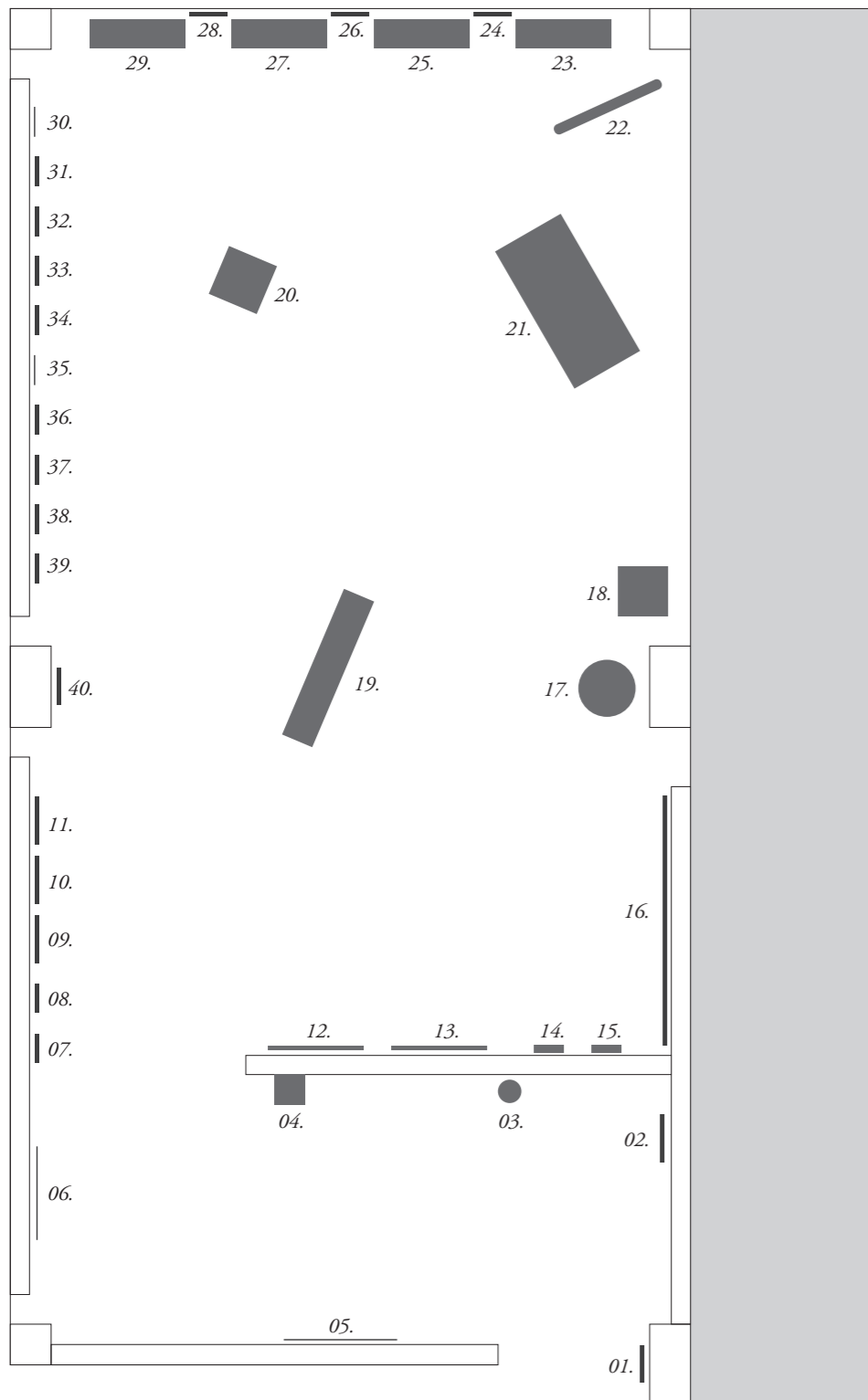
ふるさかはるか

\*『メイキング』ティム・インゴルド 著、金子遊 水野友美子 小林耕二 訳、左右社、2017

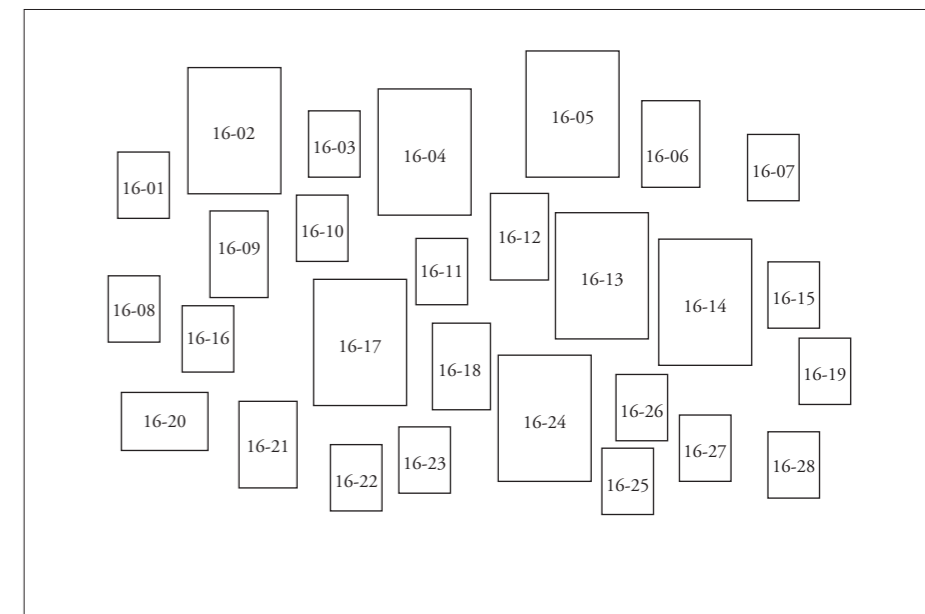
ふるさかはるか(木版画家)

土と藍から自作した絵具と、版木の持つ自然な色・形に着目した木版画を作る。ノルウェーなど北国での滞在制作・発表のかたわら各地の山の手仕事を訪ね、近年では自然と共に生きる人びとの言葉や手仕事をテーマにした作品に取り組んでいる。展覧会『トナカイ山のドゥオッジ』では、北欧の先住民サーミの人びとを取材した木版画シリーズを発表。2017年国際芸術センター青森での展覧会『土のことづて』を機に青森での取材を重ねてきた。2010年「木版画アトリエ空中山荘」を立ち上げ、美術館等でのワークショップを通して手仕事と絵画の要素をあわせ持つ木版画の魅力を伝える取り組みも行っている。

harukafurusaka.net | kucyusansou.com



01. 《岩木山登山口》	2022	ピンホール写真	248×248
02. 《青山登山》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	455×380
03. 漆の木			
04. 『つくること、応答すること』 テキスト：登久希子さん			
05. 取材で撮影したピンホール写真			
06. 《ことづて》	2022	シルクスクリーン インク, 紙	660×975
07. 《夜営》	2018	木版 藍, 土, 紙	298×237
08. 《Ancestor》	2020	木版 藍, 土, 紙	210×150
09. 《夜の山道》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
10. 《雪踏み》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
11. 《樹液》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
12. 《ことづての声》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	1120×870
13. 《積層の器》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	1120×870
14. 〈夜営〉版木	2018		
15. 〈ソマの舟〉Vol.1 版木	2020~2022		
16. ドローイング *右に詳細			
17. 採取した土			
18. 藍から抽出した顔料			
19. 《底流：雪》	2022	土, ヒバ	
20. 藍・土から精製した顔料、漆の版木			
21. 作業机			
22. 収穫した藍			
23. 取材日記			
24. 《漆林 01》	2022	ピンホール写真	248×248
25. インタビュー原稿：中畑文利さん（鍛冶屋）			
26. 《漆林 02》	2022	ピンホール写真	248×248
27. インタビュー原稿：鈴木健司さん（漆掻き・塗師）			
28. 《漆林 03》	2022	ピンホール写真	248×248
29. インタビュー原稿：山中泰彦さん（マタギ・木地師） ※1960~70年代に録音した山中繁敏さんの笛の音は、右のQRコードを読み込み、「Cockieeを受け入れる」に「I Accept」をクリックでお聴きいただけます。			
30. 〈ソマの舟〉Vol.1 ショートエッセイ			
31. 〈ソマの舟〉《Leaving》	2020	木版 藍, 土, 紙	227×176
32. 〈ソマの舟〉《Pear Tree》	2020	木版 藍, 土, 紙	227×176
33. 〈ソマの舟〉《Watching the Other Side》	2021	木版 藍, 土, 紙	227×176
34. 〈ソマの舟〉《Thaw》	2021	木版 藍, 土, 紙	227×176
35. 〈ソマの舟〉Vol.2 ショートエッセイ			
36. 〈ソマの舟〉《Flute》	2021	木版 藍, 土, 紙, 水彩	182×234
37. 〈ソマの舟〉《The Setting Sun》	2022	木版 藍, 土, 紙	182×234
38. 〈ソマの舟〉《Lacquer Tapping》	2022	木版 藍, 土, 紙	325×320
39. 〈ソマの舟〉《Firewood and Charcoal》	2022	木版 藍, 土, 紙	325×320
40. 《斜陽》	2022	ピンホール写真	248×248



16-01 《重ね補う》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-02 《津軽塗》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-03 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 紙	186×136
16-04 《漆掻き》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-05 《樹液》	2022	ドローイング 藍, 紙	330×240
16-06 《夜の山道》	2022	ドローイング 藍, 紙	230×157
16-07 《湧き起こる》	2017	ドローイング 藍, 紙	186×136
16-08 《ことばの器》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-09 《漆の木》	2022	ドローイング 藍, 紙	230×157
16-10 《雪踏み》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-11 《層を積む》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-12 《青山登山》	2022	ドローイング 藍, 紙	230×157
16-13 《雪踏み》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-14 《積層の器》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-15 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-16 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-17 《山掛けの笛》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-18 《湧き起こる / 年輪》	2022	ドローイング 藍, 紙	230×157
16-19 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-20 《畏怖》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	157×230
16-21 《漆林》	2022	ドローイング 藍, 紙	230×157
16-22 《集まる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-23 《層を積む》	2021	ドローイング 藍, 紙	186×136
16-24 《漆の泡》	2022	ドローイング 藍, 土, 紙	330×240
16-25 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-26 《ソマのソリ》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-27 《湧き起こる》	2019	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136
16-28 《ことづての声》	2020	ドローイング 藍, 土, 紙	186×136